

■兵庫県の要請で「真生園」を開園

恵生園を開園して間もなく、恵生園の用地内に身体障害者療護施設を創りたいので協力してほしいとの要請が当時の 坂井時忠兵庫県知事から届きます。

当初から総合的な社会福祉事業を考えていた神戸聖隷はこの申し出を受託。資金面は兵庫県の厚い支援があったため、わずか1年あまり後の1978(昭和53)年5月に重度の介護と療養を提供する真生園を開園できました。開園式には知事も出席、県の高い期待を感じました。

真生園は兵庫県内最初の身体障害者療護施設として、超重度身体障害者のためのキリスト教の隣人愛を基盤にした福祉の道筋をつけるとともに、世界各国からボランティアが訪れるグローバルな雰囲気のある施設として成長していきました。



真生園を開園

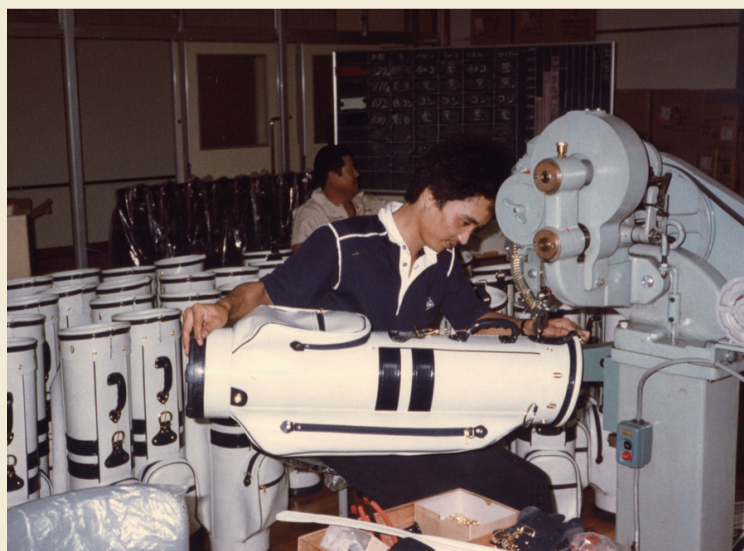
■公立民営の受託施設として「和生園」を開園

1980年代に入ると、障害者福祉の夜明けとなる「国際障害者年」がスタート。和田山町も独自に身体障害者通所授産施設を計画します。しかし竣工直前になっても運営主体が定まらず、私たちに運営の依頼が入ります。こうして1982(昭和57)年4月「和生園」が開園。法人初の公立民営施設の誕生でした。

障害者が働くことを目的とした和生園は、カバンの町豊岡に近い立地を生かしてキャディバッグ製造会社から仕事をいただき、それぞれの障害に応じた作業補助工具を開発して利用者のハンディキャップを克服。「和生園と言えばキャディバッグ」という評価をいただくようになりました。現在ではこの製造技術を生かして人気ランドセル製品の重要パーツの製造を行っています。



和生園 開所式



和生園のキャディバッグ製造

「福祉時代」のフロントランナーとして、神戸地区の福祉事業に着手しました。

■神戸市より2万m²の大きな恵みが…

現在、本部が所在する神戸市須磨区友が丘の土地は、神戸市の国際障害者年記念事業である障害者福祉計画の担い手として神戸聖隷が選ばれ、与えられました。神戸で挫折して和田山で事業を始めた私たちが、神戸市から選ばれたことは何という神様の恵みでしょう。

1982(昭和57)年に精神薄弱者通所授産施設「神戸聖生園」と身体障害者療護施設「神戸愛生園」、1984(昭和59)年身体障害者通所授産施設「神戸友生園」を開園し、第2次ベビーブームで強まる神戸市の障害者福祉ニーズに大きな役割を果たしていきます。

この流れは、1985(昭和60)年の精神薄弱者通所授産施設「神戸光生園」開園、1991年の精神薄弱者入所更生施設「神戸明生園」開園、1996(平成8)年の神戸市立中部在宅障害者福祉センター受託開所へと続いていきました。

■反対運動を糧に、地域との共生

「神戸聖生園」「神戸愛生園」を建設する地域では、「北須磨団地」という新興住宅地の暮らしが始まっていました。知的障害者施設が近隣に建設されるという話が広がると反対運動が勃発しますが、法人は住民説明会を開催し、自治会は神戸市内の施設見学などを行って、お互いを理解し合う努力が行われます。障害者に対する誤解は徐々に解け、最後には自治会長から「頑張れ」との励ましの言葉をいただくことができました。

「神戸聖生園」「神戸愛生園」が開園した1982(昭和57)年7月、北須磨団地自治会の主催で、第1回「おいでやすカーニバル」が開かれ、2つの施設の誕生と利用者を歓迎してくださいました。このカーニバルは、その後は神戸聖隷が主催となり、今も地域住民との交流イベントとして毎年、秋分の日に大々的に開催しています。



「神戸聖生園」「神戸愛生園」 竣工式



神戸光生園



第一回「おいでやすカーニバル」

ひとり立ちと 初心の実現

分離独立し、念願の特養建設を目指しました。

■法人のひとり立ち

私たちは事業と信仰のつながりのために、和田山と神戸にキリスト教伝道所を設けて独自の創業精神を発展させてきました。そして、1974(昭和49)年聖隷福祉事業団と取り交した公正証書に基づいて、1983(昭和58)年12月に厚生省認可を得て、翌1984(昭和59)年1月に新法人の登記を完了し、神戸聖隷福祉事業団として独立しました。

これにより神戸聖隷は兵庫県内有数の障害福祉事業集団となります。神戸では知的障害者を中心とした福祉サービスを提供、和田山では障害者に加えて高齢者福祉施設づくりにも挑戦していきます。神戸と和田山の距離や地域性の違いを「愛と奉仕の実践」を目指す神戸聖隷精神で縮め、大都市と地方の両極を見つめながら、その地域に必要な福祉サービスを提供する体制を生み出してきました。



第一回理事会

■思いを込めて特養「平生園」を開園



平生園の竣工式

高齢者福祉は神戸聖隷の活動の原点です。神様の計らいで障害者福祉に取り組んで10数年、やっと高齢者福祉に挑む機会が訪れます。まず、1988(昭和63)年に老人デイサービスセンター「さくらの苑」を和田山町からの受託で開園。

そして、同年9月の理事会に和田山町長から特養建設の要請があり、念願の特養に着手。しかし時代はバブルの真ただ中。折あしく但馬を襲った台風被害の影響もあって平生園の建築費は高騰し、資金確保の悩みが付きまといました。

私たちは和田山町当局と共に「特別養護老人ホーム「平生園」の建設を支援する会」を立ち上げて、地域社会に訴えました。5つの小学校区ごとに説明会を開催して資金協力を行った結果、和田山町全4千世帯から5千万円を超す浄財が寄せられ、住民の皆様の大きな期待を担う責務を認識しました。



平生園開園式典に出席の和田山町関係者